教育情報学研究　第16号（2017）
Educational Informatics Research, 2017, No.16, 69-75

保健体育科教員のダンス教育に対する意識調査

薄井　洋子 *，任　暁晨 **，柳田恵梨奈 **，佐藤　克美 ***，渡部　信一 ***

*東北学院大学 英語教育センター
**東北大学大学院教育情報学 教育部
***東北大学大学院教育情報学 研究部・教育部

要旨：平成24年度から中学校の保健体育では，ダンスが必修となった．それから5年たった今でも指導に様々な問題があると報告されている．そこで本研究では，中学校の体育科教員がダンス指導をどのようにとらえているか，授業の取り組みやすさ・取り組みにくさとその要因を明らかにするため，全国的なアンケート調査を実施した．その結果，ダンスの指導を取り組みにくいと考えている教員は，生徒も楽しんでいないと考えていることが明らかとなった．また，ダンスの授業の取り組みやすさに活かされていない可能性があることがわかった．さらにICTの活用が授業の取り組みやすさに影響していないことが明らかとなった．

キーワード：保健体育　中学校　ダンス　全国調査　取り組みやすさ

1. はじめに

学習指導要領の改訂に伴い，中学校保健体育においては，平成24年度から従前では選択であった「ダンス」が必修となった（文部科学省 2010）．

改定前の保健体育では「ダンス」の領域は選択であり，選択されたとしても女子のみで扱われることが多かった．そのため，中学男性教員の中にはダンスの授業をしたことが無いものも多くいる．さらに，改定により新たに「現代的なリズムのダンス」が取り入れられた．これらの現代的なリズムのダンスは男性教員のみならず全教員が指導したことがなく，学習したことすらないものが多いと思われる．そのような状況から，必修化に際し，指導に関して不安を感じる教員が多いと報告された（髙橋 2016 , 松本 2013，宮本・高岡 2012，淺野・熊谷 2011）．結果，流行曲のダンスの振り付けを丸写しさせるだけの授業も見られる状況であるという．（中村 2012）

また，現場の職員は「現代的なリズムのダンス」においては，リズムにのって踊るといった技術を中心に捕らえる傾向があり，ダンス領域の目標である「自由な表現や相手との交流」，「動きを工夫して発表する」といった部分はあまり目標とされていない（中村2016）といった指摘もなされ，5年以上経ってもダンス授業への取り組みが難しいことが伺える．

ダンス必修化の前後は全国的な調査が多く行われたが，5年たった現在その後不安は解消されたのか，ダンスの授業は取り組みやすくなったのか全国的な調査はあまり行われていない．

そこで，ダンスの指導の取り組みやすさについて教員がどう考えているのか全国的に調査することにした．本研究では特に，ダンス指導の取り組みやすさが，生徒の取り組む姿勢・学校規模・ダンス経験の有無・ダンスの研修の有無・ダンスの学習分野・ダンス学習時間・ダンスの授業でのICT活用の有無によって，どのような傾向があるかについて検討する．

2. 方法

2.1 調査概要

全都道府県の中学校が無作為に計1,133校を

抽出しアンケートを送付した．回答は，郵送・FAX・WEB による回答のどれかを選ぶかたちをとった．調査内容は，ダンス指導の取り組みやすさ，生徒の取り組みやすさ・学校規模・ダンス経験の有無・ダンスの研修の有無・ダンスの学習分野・ダンス学習時間・ダンスの授業での ICT 活用の有無であった．

2.2 調査方法

調査は 2016年8月から12月にかけて，中学校体育科教員に対し実施した．調査対象者には，アンケート回答は任意であること，調査実施前に個人情報取り扱いに関する条項を説明し，調査協力に対して同意をした者のみに回答してもらった．その際アンケートは匿名で行った．

2.3　分析方法

本研究では，項目間の比較においては欠損値のある回答を省き，そのほかは調査項目毎の回答総数を有効回答として分析対象とした．

3．結果

回収数は1133校中，415 校（回収率 37%）であった．中学校保健体育科教員のダンスに対する取り組みやすさについての回答は415人中407人から得られた．（表1）．取り組みやすいと答えた教員は39人，やや取り組みやすい 78人，普通 127人，やや取り組みやすい 118人，取り組みにくい 45人であった．どちらかと言えば取り組みやすいと感じている教員（29%）と，普通（31%）と答えた教員がほぼ同じ割合でおり，また，取り組みにくい（40%）という教員が若干多いことがわかった（表1）．教員の意識がはっきりと分かれていることがうかがえる．

表1　教員のダンスに対する取り組みやすさ

取り組みやすい	39
やや取り組みやすい	78
普通	127
やや取り組みにくい	118
取り組みにくい	45
無回答	8

教える立場からみて，生徒たちがダンスの授業をどのように受け止めていると感じているかどうか聞いたところ，回答のあった405人中楽しく取り組んでいると感じている 100人，やや楽しく取り組んでいると感じている 205人，どちらでもないと感じている69人，やや楽しくないと感じている31人，全く楽しくないと感じている0であった（表2）．必修化される前は人前で踊ることをはずかしがる生徒がいることなどが懸念されていたが，現在はおおむね生徒はダンスを楽しみながら取り組んでいることがわかる．

表2　生徒のダンスに対する取り組みやすさ

楽しく取り組んでいる	100
やや楽しく取り組んでいる	205
普通	69
やや楽しくなく取り組んでいる	31
楽しくなく取り組んでいる	0
無回答	10

体育科教員の所属する学校の規模については，大規模校119校，小規模校274校であった（表3）．なお，ここでの小規模校は3学年合計12学級以下，大規模学級は13学級以上とした．

表3　学校規模

大規模	119
小規模	274
無回答	22

教員になる以前のダンスの学習経験の有無については，経験有と答えた教員78人に対し，ダンス経験無と答えた者は326人だった（表4）．体育教員の多くがダンスを学習したことがないまま教員となり生徒にダンスを指導していることがわかる．

表4　ダンス学習経験

あり	78
なし	326
無回答	11

また，教員になってからのダンスの研修歴については，研修経験有316人，研修経験無66人だった（表5）．多くの教員がダンスの研修を受けており，ダンスの指導力向上を目指していることがうかがえる．

表5　ダンスの研修歴

あり	316
なし	66
無回答	33

ダンスの学習分野についての質問では，中学一年で創作ダンスを選んでいる中学校は73校，フォークダンスは60校，現代的なリズムのダンスは130校，そのうち複数分野行っていると回答したのは117校だった．また，中学二年では，創作ダンスを行っているのは61校，フォークダンスは42校，現代的なリズムのダンスは169校，複数分野選んだ中学校は41校であった．さらに，中学三年では，創作ダンス 76校であり，フォークダンス 30校，現代的なリズムのダンス 149校，複数分野 73校であった（表6）．複数分野をあつかっている学校でもその一つとして現代的なリズムのダンスをあつかっている学校は，中学一年90校，中学二年93校，中学三年83校であり，単独で現代的なダンスを扱っている学校を合わせると約65% の学校で現代的なリズムのダンスをあつかっていることがわかった（表6）．

表6　ダンスの学習分野

	1 年	2 年	3 年
創作	73	61	76
フォークダンス	60	42	30
現代的なリズムのダンス	130	169	149
複数分野	117	41	73
無回答	35	41	73

また，ダンスの授業時間数に関しては，1時間45分授業に対し，7時間以下と回答した中学校は125校，8・9時間と回答した中学校は138校，10時間以上と回答した中学校は123校であった（表7）．8・9時間を中心に，授業時数を少なめにとる学校と，多めにとる学校が同程度あることがわかる．

表7　ダンスの授業時間

7 時間以下	125
8・9 時間	138
10 時間以上	123

ダンスの授業での ICT 活用については，授業で ICT を活用していると回答した中学校は343校と多く，授業で活用していないと回答した中学校は63校であった（表8）．

表8　ICT活用

授業に用いている	343
授業に用いていない	63
無回答	9

ICT 機器のうちもっとも活用されているのは，ビデオ映像（231校）で，続いてビデオカメラ（199校），プロジェクタ（198校），CD（160校），タブレット PC（129校），PC（127校），カメラ（31校），キネクト（4校），その他（3校），書画カメラ（2校），ゲーム機（1校）であった（複数回答）．

ダンス映像を見せる，もしくはダンスを撮影し映すといった活用がされていることがうかがえる．また PC もしくはタブレット PC を使用していると回答した体育教師が203人おり，50% の学校では，ダンスの授業にコンピュータが活用されていることがわかった．

4．考察

生徒の取り組みと教員のダンス指導の取り組みやすさ

生徒の取り組みが教員のダンスの指導の取り組みやすさに影響するのかを検討するため，スピアマンの順位相関関係を調べたところ r=0.49であった．ダンスの指導がやりにくいと考えている教員は，生徒も楽しんでいないと考えおり，教員の指導領域の得手不得手が生徒に影響を及ぼす可能性

表9 教員の取り組みやすさとの関係

表9-1 教員の取り組みやすさと学校規模

	1		2	3		4	5		
12 クラス以下	25		51	77	*	80	37	*	†
13 クラス以上	11		25	46	*	30	7	*	

X^2= 7.91　*p<.05　†p<.1

表9-2 教員の取り組みやすさとダンス経験

	1	2	3	4	5		
ダンス経験有	12	19	27	17	2	**	**
ダンス経験無	25	59	99	98	42	**	

X^2= 13.43　**p<.01

表9-3 教員の取り組みやすさとダンス研修経験

	1	2	3	4	5
研修経験有	31	64	96	92	30
研修経験無	5	10	25	17	9

X^2= 3.10

表9-4 教員の取り組みやすさとダンス学習分野

	1	2	3	4	5
創作	8	16	24	19	6
フォーク	7	12	18	11	12
現代	10	19	37	46	14
複数分野	10	27	41	29	10

X^2= 11.26

表9-5 教員の取り組みやすさとダンス学習時間

	1		2	3	4	5		
7 時間以下	12		18	36	33	14		
7〜9 時間	6	**	27	47	40	21		†
10 時間以上	19	*	28	38	35	8	*	

X^2= 14.14　**p<.01　*p<.05　†p<.1

表9-6 教員の取り組みやすさとICT活用

	1	2	3	4	5
ICT 活用有	36	67	108	94	34
ICT 活用無	3	10	18	23	9

X^2= 4.79

1 取り組みやすい・2 やや取り組みやすい・3 普通・4 やや取り組みにくい・5 取り組みにくい

があることがわかった．教員のダンス指導の取り組みにくさを取り除くための支援が急務であると考える．

学校規模によるダンス指導の取り組みやすさ

学校規模がダンスの指導の取り組みやすさに影響するのか検討するため，カイ2乗検定を行った．その結果，X^2= 7.91，p<.1と有意傾向がみられたので残差分析を行ったところ，大規模校では取り組みにくいと答えた教員が有意に少なく，また普通と答えた教員が有意に多かった．

この理由としては，大規模校は体育科教員数が多いため互いに相談したりできるのに比べ，小規模校では体育科教員が少なく一人で指導の悩みを抱え込んでしまう等の問題が考えられるが，詳しい理由については今後更なる調査が必要である．

ダンス経験によるダンス指導の取り組みやすさ

教員のダンスの学習経験がダンス指導の取り組みやすさに影響しているのか検討したところ，X^2= 13.43，p<.01と有意差が見られた．また，残差分析を行ったところ，経験ありの教員は取り組みやすいと答えた教員が有意に高く，逆に取り組みにくいと答えた教員が有意に少なかった．ダンス経験がダンス指導の取り組みやすさに関係しているといえる． ダンスの授業を取り組みやすさは，教員になる前のダンス経験の有無が影響している．教員養成段階でダンスの学習経験を積ませることが重要であると思われる．

ダンス研修の有無によるダンス指導の取り組みやすさ

多くの教員がダンス指導の研修を受けた経験があるとしている．しかし，研修を受けた経験がある教員と，受けていない教員と授業の取り組みやすさに有意な差はみられなかった．

このことから，研修がダンス指導に効果的に生かされていない可能性がある．単にダンスを踊らせるだけでなく，どう指導するのか等，授業をする教員に役立つ研修を行う必要がある．また，大規模校の教員の方が取り組みにくさを感じていないことから，体育教員間で相談することが取り組みにくさを解消する一つの方法となっている可能性が想像される．研修等においても，教員間が相談できるような場を持つとより役立つ研修となり得るとも思われる．

ダンスの学習分野よるダンス指導の取り組みやすさ

ダンスの学習分野（創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンス）がダンス指導の取り組みやすさに影響しているのか検討したところ，有意差はみられなかった．必修化当初は現代的なリズムのダンスの導入により，その指導を不安だと考える教員が多いと言われていた（中村 2016）が，現在その不安はほぼなくなったと考えられる．それどころか，アンケートからは，現代的なリズムのダンスを選択している学校が65%あった．多くの学校がダンスの学習として必修化により新しく加えられた現代的なリズムのダンスを取り入れたことがわかる．ダンス指導の取り組みやすさ，取り組みにくさは，ダンスの分野に起因するものというより，ダンス領域そのものが持つ特徴によるものと思われる．ダンス領域の問題について今後更なる分析が必要と思われる．

ダンス学習時間によるダンス指導の取り組みやすさ

ダンス領域の授業時間とダンス指導の取り組みやすさは，X^2=14.01，p<.1と有意傾向がみられたので残差分析を行ったところ，10時間以上ダンスの授業時数を確保している中学校では，取り組みにくいと答えた教員が有意に少なく，取り組みやすいと答えた教員が有意に多かった．また平均的な時数行っている教員は取り組みやすいという答えた教員が有意に少なかった. この理由としては，時数が増えた分，充実した授業が行えるからという理由からと考えられる．また，取り組みやすいと感じている教員ほどダンス領域に時間を割いているとも思われる．

ICT 活用の有無によるダンス指導の取り組みやすさ

近年，体育の授業において ICT 活用が高まっている．ICT の学習効果は多くの研究で明らかになっていることである．今回の調査でも多くの教

員がICT機器を活用し，その半数はPCを用いていた．ICT活用が広まっていることがわかる．

しかし，ICT活用の有無がダンス指導の取り組みやすさに影響しているのか検討したところ有意差は見られなかった．つまり，ICT活用により学習効果はあるのかもしれないがだからと言ってダンスの指導がやりやすくはなったわけではない可能性がある．

今後は，ダンスの授業がやりやすくなるような，教員にとっても効果的なICTの活用法の検討が必要となる．

5. まとめと今後の課題

本研究では，教員が現在のダンス指導の取り組みやすさとその要因について明らかにするために，中学校の保健体育科教員に対し全国アンケート調査を実施した．その結果，

1. ダンスの指導をやりにくいと考えている教員は，生徒も楽しんでいないと考えている．教員の得手不得手が生徒に影響をおよぼす可能性がある．
2. ダンスの授業の取り組みやすさは，教員になる前のダンス経験の有無が影響している．そのため，教員養成段階でダンスの経験を積ませることが重要である．
3. 教員になってからの研修の有無は，ダンスの授業のしやすさに影響していない．研修においては単にダンスを学習させるだけでなく，どう指導するのかといったダンスの教授法等，授業をする教員に役立つ研修を行う必要がある．

今後は，取り組みやすいと感じている教員とそうでない教員の指導や授業の特徴，ダンスに対する意思，その指導に対する意識などをさらに分析し，ダンス指導に役立つ知見を得たいと考える．

現在のICT活用により教員が取り組みやすい状況にはなっていない．教員が授業をしやすくなるような効果的なICT活用についても検討が必要である．

5. 参考文献

浅野愛美，熊谷佳代（2011）中学校ダンス必修化に対応した「現代的なリズムのダンス」の教材開発，岐阜大学教育学部研究報告　教育実践研究，13，pp55-67

髙橋和子（2016）改訂期のダンスでいま，何が，どう問題か，体育科教育，2016-03，pp16-19，大修館書店

松本富子，中村なおみ，小林峻（2013）ダンス指導法実技研究にみる現職教育の成果に関する検討，群馬大学教育学部紀要　芸術・技術・体育・生活科学編，48，pp105-117

宮本 香織，高岡 治（2012）現代的なリズムのダンスにおける指導内容についての発生運動学的一考察，鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要，22，pp19-27

中村恭子（2009）中学校ダンスの男女必修化の課題―中学校教員を対象とした調査にもとづいて，順天堂大学スポーツ健康科学研究，1（1）（通巻13），pp27-39

中村恭子（2012）ダンス教育の展望と課題，体育科教育，2012-02，pp18-21，大修館書店

中村恭子（2016）現代的なリズムのダンス＝ヒップホップダンスという“誤解”を解いて自主創造的なダンス学習へ，体育科教育，2016-03，pp，28-31大修館書店

文部科学省（2010）中学校武道・ダンスの必修化に向けた条件設，http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1294568.htm

Attitude Survey for the Dance Education of the Health Physical Education Teacher

Yoko USUI* , Ren XIAOCHEN, Erina YANAGIDA**, Katsumi SATO***, Shinichi WATABE*****

* Center for English Education, Tohoku Gakuin University -
**Graduate School of Educational Informatics / Education Division, Tohoku University
***Graduate School of Educational Informatics / Research Division, Tohoku University

ABSTRACT

In 2012 dance became a mandatory subject in Japanese junior high schools. It is reported that health and physical education teachers still have problems with leading dance classes, the dance curriculum, and the instruction methods even five years later. Therefore, in this study, we decided to carry out a question survey over the whole of Japan in order to clear up teacher's efforts of instruction dance. As a result, Teachers who found the instruction of dance difficult also had students do didn't enjoy dancing too. Teacher's familiarity with dance effected their dance experience before becoming teacher. Finally, dance training given after they became teacher, wasn't useful for their familiar and easy of teaching.

Key words: Health and physical education　Junior high school　Dance　Survey　Effort